

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 058	提案機関名 自然環境保全センター自然再生企画課
<b>要望問題名</b> シカ影響と森林生態系動向調査の検討・実施	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】  丹沢山地におけるニホンジカによる生態系への影響については、現在、植生への影響を中心に調査が実施されている。生態系への影響を考えた場合、他の生物相についても影響を把握する必要があるが、丹沢大山総合調査以降、実施されている調査は少ない。総合調査において各種基礎的な調査は実施されているため、それらの調査結果をもとに、今後、自然再生の取組の効果等を長期的にモニタリングする際の指標・調査方法等について整理し、現時点の状況を調査する。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター    ②畜産技術所    ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	自然環境保全センター	<b>担当部所</b>	研究連携課
<b>対応区分</b>	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合) 水源林の森林生態系としての効果把握手法の開発(仮題)		
<b>対応の内容等</b>	丹沢大山総合調査以降、植物以外の分類群に及ぼすシカの影響は不明のままで、それを明らかにする重要性を認識しています。しかし、植生モニタリングの結果から、柵外ではほとんど植生に変化がないことがわかっており、他の生物への影響も変化が小さいと予想しています。なぜなら、シカによる生物相への影響はシカの餌である植物を介しておこるからです。丹沢での調査の前に、まずはシカの影響の少ない森林で、生態系としての健全性をあらわす指標や調査方法を検討する必要があります。そこで、シカが低密度の小仏山地において今年度から森林生態系としての効果把握手法の開発に着手したところですが、次年度は箱根外輪山で調査して、それまでの解析結果を待って、丹沢での現地適応試験の実施を考えています。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>			